

## 第2章 概要

### 第1節 はじめに

退職後も元気よく過ごしていくために、現役世代はどのような準備をすればよいか、また働き方に関する制度や仕組みをどのように変えていくのがよいかを考えるために、定年を控えた現役の方々および定年退職された方々にアンケート調査を実施した。

### 第2節 アンケート調査の概要

#### (1) 調査目的

定年後の幸福度（満足度）、健康水準、経済的状況と在職時の働き方、生活の仕方の関連についてアンケート調査を行って明らかにして、(50歳以降の)現役世代に対し、定年後もイキイキと暮らすための現役時代の働き方とライフスタイルのあり方など「退職後の備え方」を提言することを目的とする。

#### (2) 調査対象

調査対象は、トヨタグループ主要企業7社の55歳以降の従業員及びOBとする。依頼部数と有効回答数は、表1の通りである。現役への配布は622部、有効回答470部、退職者・再雇用者への配布は1370部、有効回答945部であった。<sup>1</sup>

表1. アンケート調査対象と回収数

	配布数	有効回答数
現 役	622	470
退職・再雇用者	1370	945
合 計	1992	1415

\*退職者・再雇用者には、最も長く勤めた企業が「その他」である8名を含む。

<sup>1</sup> 退職者・再雇用者の回答において、ページめくりの誤りからか記入もれの回答（1～2ページ程度、設問数で9問）が約90部あった。これらも有効回答数に含めて、知り得た情報を可能な限り利用する。

依頼方法は、①「現役」向けは、目安として55歳から60歳くらいまでの現役を対象として、中部産政研より各社（人事担当部署）に一括してアンケートを渡した。管理職と組合員の内訳等の展開方法は各社に一任した（例えば、退職者説明会の参加者に配布）。②「退職者・再雇用者」向けは、主として60歳以上の退職者・再雇用者を対象として、原則として個人宛てに各社手配で郵送した。人選は、特定の層への偏りが無いことを前提に各社に一任した。

なお、OB会参加者へ配布した場合は、比較的活発なOBが調査対象となるため、サンプルに偏りが生じる点に留意する必要がある。また、退職者・再雇用者では、郵送法のため、本人が回答するとは限らず、特に病弱・要介護の場合には、家族が回答して返送する可能性がある。そのため、本人による回答か、配偶者や介護者の回答かを識別する問いをつけた。

### (3) 調査期間

本調査の事務局から専門委員への質問票の配布を2月4日（金）、専門委員からの調査対象者への配布を2月15日（火）までの間として、原則として、回答期限を3月4日（金）とした。返送された回答を順次回収して、4月19日（火）にデータの入力作業を終えた。

## 第3節 提言とその解説

### 1. 退職後の暮らしに向けて在職時から備える

退職後の暮らしに向けて、在職時に貯蓄（図1）や趣味をもつ（図2）ように準備した人の方が、退職後の生活や家庭等における満足度が高い。アンケートの自由記述欄でも、多くの人が趣味をもつことで退職後の生活が充実すると回答している。

図1. 在職時定年退職後に備えて貯蓄をしたか（問6）と現在の満足度の関係（問38）

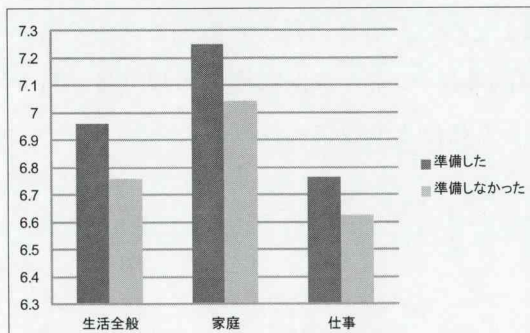
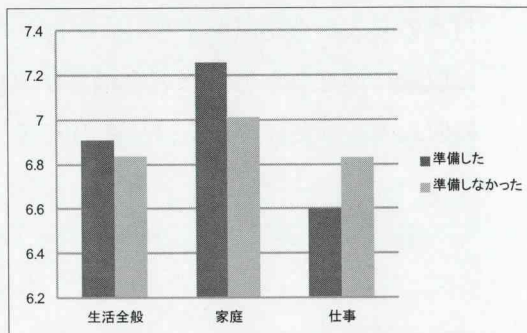


図2. 在職時定年退職後に備えて自分なりに趣味を持つ準備をしたか（問6）と現在の満足度の関係（問38）



## 趣味のすすめ：自由記述欄より

- 趣味は現役の時に少なくとも3つ、①雨が降っても出来る事 ②一人でも出来る事 ③複数人で出来る事は持つ事。道具の必要な趣味は一生使える良い物を現役の時に揃えておく事。
- 趣味を通じて出来た友人が長く付き合えると実感している。金銭的な問題もあるかもしれないが、若いうちから何かひとつは集中出来るものを作っておく事が大切と思う。地域の活動にも奥さん任せにせず、なるべく参加しておけば良かったと反省している。
- 退職時、私は趣味の事はほとんど考えていませんでした。しかし退職後、自分がやれる事は無い、すべて0発進です。少しでも何かしていれば良かったと思っています。
- 長く続けられる趣味を持つ。会社名、職位等に固執しない生活。地域活動への順応性が必要!! 社会へ出れば“先生”があらゆる方面にいる。
- 趣味と言うけれど本当に好きな趣味でないと継続できませんので色々なことにチャレンジして自分に合った趣味を沢山見つけて下さい。何をするにも健康第一です。
- 現役の時は仕事を中心であるのは当然であるが、私が現役を退いてから思う事は、現役の間に暇を作り趣味を持つ努力をすべきだと思いつくづく思う。趣味はスポーツと机上でやるものが良いと思う。
- 英会話、パソコンを使いこなせるようにしておいた方が良い。

## 2. 退職後の収支をイメージして貯蓄・資産運用に励む

月々の収入が多いほど幸福度は高くなるが、35万円以上でやや横ばいになる(図3)。月々の収入から支出を差し引いた月々の収支をみると、月々に貯金できるくらいに収支にゆとりがあるほど幸福度が高い(図4)。つまり、退職後の幸福度は、月々の収入の多寡だけでなく、月々の収支(くらしのゆとり)にも影響される。



図3. 月々の収入（万円、問34）と幸福度（問37）

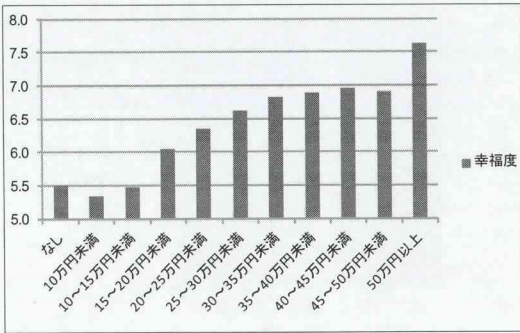
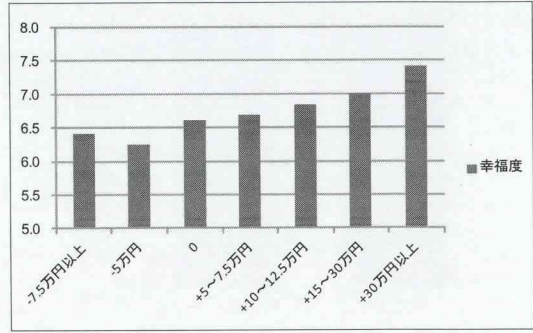


図4. 月々の収支（収入－支出（万円）、問34）と幸福度（問37）



### 貯蓄のすすめ：自由記述欄より

- 高齢化社会になる事は十分解っているつもりだったが50歳台には貯蓄・投資をやっておいた方が良い。私は失敗しました。
- 定年退職後を考えると年金収入だけではとても生活費が大変です。若い時から貯蓄をしていた方が良いと思います。私は今、後悔しています。
- 若い頃はあまり病気はしませんけど、50歳すぎると色々体の悪い所がでてきますので若い時から貯蓄を考えた方が良いと思います。
- 資金運用に関する勉強をなるべく早く始めると良いと思う。
- 定年後も世の中の情勢は大きく変わるため貯蓄はしておくこと（実に支払いの多い国だ）→在職時は給料から引かれるのが大半で皆んな気がついていない。
- 年金額は予想より少ない。現役の時少しでも多く預貯金するように。
- 早い時期（遅くとも40代初）にライフプランをセミナー等で計画され以降のプラン実現に向けた取組をされるべきと考えます。年金収入は年々目減りし、生活が厳しくなるので、老後の生活資金は出来るだけ多い方が良いと思います。

### 3. 退職のための会社説明会は役に立つ

会社説明会（資産運用、生活）が「役に立った」と回答した人は、退職後に向けた在職時の貯蓄（図5）や趣味（図6）の準備性向が高く、退職後の暮らしの満足度も高い。したがって、会社説明会への参加を促すだけでなく、「役に立つ」と実感させるための工夫が必要である。

図5. 会社の取り組み（定年後の資産運用説明会）の評価（問13）と在職時定年退職後に備えた貯蓄の準備（問6）

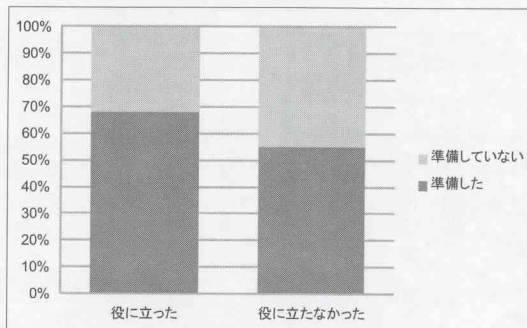
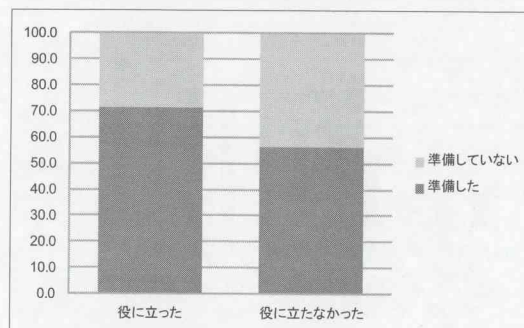


図6. 会社の取り組み（定年後の「生活説明会」）の評価（問13）と在職時定年退職後に備えた「趣味」の準備（問6）



### セミナーのすすめ、セミナーへの要望：自由記述欄より

- 生活設計に関するセミナーを受ける年齢は、20代後半～30代前半の人が全員受ける様になると良い。
- 定年後も会社、組合で支援、相談が出来るシステム（窓口）。将来に備え健康な体造りに努める。
- 保険や年金に関する公的機関に提出する書類の種類や書き方等の手本の様な本があれば、斡旋してほしい。
- 定年前の説明会を継続して実施して下さい（生活プラン計画の参考）。
- 定年後の元従業員（OB）によるアドバイス等がほしいです。
- 転職者、早期退職者のその後の話を聞く会、開業経験者の話を聞く会を企画していただけると良いと思います。
- 早い段階からの生活設計の説明、教育の機会があると良いと思います（入社10年程度の節目から）。
- 親の介護に関する知識を提供してほしい。
- 定年退職者が集う場を設けて、個人の能力を生かした起業検討やサークル活動などを行なっては。
- 情報の提供をできる限りしてほしい。ホームページ等で。
- 退職された方の生活、生き甲斐について生の声を聞き、自分なりに生活設計を立て、定年を迎えたい。

- 退職後の生活設計での成功例、失敗例（失敗から学ぶこと、今後どうすべきか）を紹介してほしい。
- 65歳までの雇用（働く意欲のある人には）とそれを支える能力開発（仕事に必要なスキルを更に伸ばすため）プログラムを確立して頂きたい。
- 自己啓発等々、もっと人間自身に焦点を当てた、講習講演を行って頂き、社会全般に関する人間性やモラルの向上につながるようなイベントを開催して頂きたい。車社会のモラル、人作りが必要と考えています。
- 趣味を磨くサークル活動が社内であれば参加したい。（例：絵画、陶芸、パソコン教室他 講座サポート、介護）
- シニア会員相互の親睦が図れるコミュニケーションの場（会館など）や部活動や見学会・講演会など催しの提供。自主的な活動が出来ると良いです。既にこの様な場が設けられている様でしたら、PRをお願いします。
- 50歳時に退職後の話を聞かせてほしかった。もっと早く計画的にやりたかった。
- 定年後の再就職活動等に参加が出来る様な活動を活発に指導して下さい。就活は難しいから。
- 定年後の生活において相談の窓口として市役所、社保庁、ハローワーク、保健センターなど公的機関の役割、機能、目的など教えて欲しかった。年金額は予想より少ない。現役の時少しでも多く預貯金するように。
- 現役の時にやっておいた方が良く：仕事で関わりのある職場の仲間とのコミュニケーションを深めることと職場の垣根を越えた人たちとのコミュニケーションを図ることも大切。人脈作りの礎えとなります。技術会や社内活性化、スポーツイベントなど、会社からも支援を更に頂けると良いです。



#### 4. 現在の楽しみと将来への備えの両面から健康づくりに励む

在職時から健康維持に取り組んだ人は、退職後における窓口自己負担額が低く（図7）、退職後の病気の重症度（入院日数、図8）が比較的低い。また、生活習慣の見直しだけでなく、酒やたばこを減らす、定期的に健康検査を受ける等、健康維持のための積極的な活動は、現在の幸福度の向上につながっている。

図7. 窓口自己負担額（回あたり、問43-2）と準備（問6）

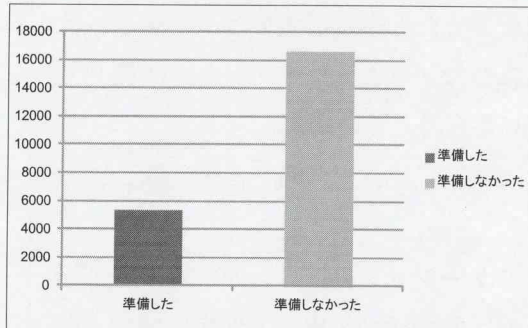
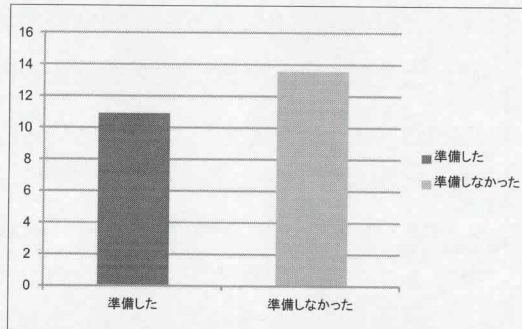


図8. 入院した日数（付問44-1）と準備（問6）



#### 健康づくりのすすめ：自由記述欄より

- 生活習慣病の恐ろしさを徹底しておかないと定年後の生活が大変です。
- 定期的健康診断を継続して受診できたら有り難い。
- 明るく元気な前向きな社風の醸成、維持をお願いします。
- 在職中においては年相応の無理のない業務で健康に過ごせるようご配慮頂きたい。55歳を過ぎても同じ期待値では辛いと思われる。
- 腰を痛める人が多いように思えます。私も腰のヘルニアでブロック注射を打っています。若い時から無理をしている人は定年ごろにガタが来ますので社員専用のジム等でインストラクターを起用して健康管理してほしい。
- 体調の定期チェック（歯科、脳ドック等）、集中できる趣味・健康維持の運動習慣が必要。
- 健康第一。考え方を全てプラス思考で対応する。苦しい事、つらい事もプラスに変えると全て良くなる。
- 40歳を過ぎたら、まず健康増進と体力づくりが必要。50歳位～定年までの間に血液検査でNGのものは基準値に入る様にして下さい。例えば、高血圧、高尿酸、高血糖。追加として前立腺P S Aを検査しておく必要があります。

## 5. 「自発的に」働きゆったり暮らす

在職時に「仕事を生きがい」に感じていた人は、退職後の就労意識が高く、仕事を続けたいと望む傾向がある。定年退職後も働いている人の幸福度は総じて高い（図9）。

図9. 現在の就業状態（問16）と幸福度（問37）

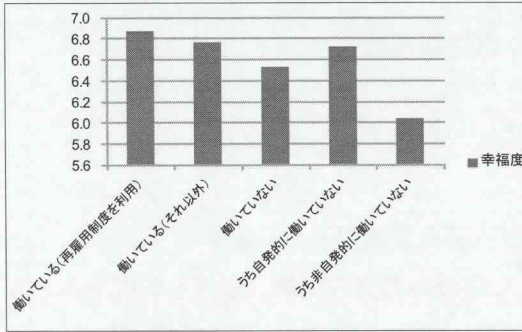
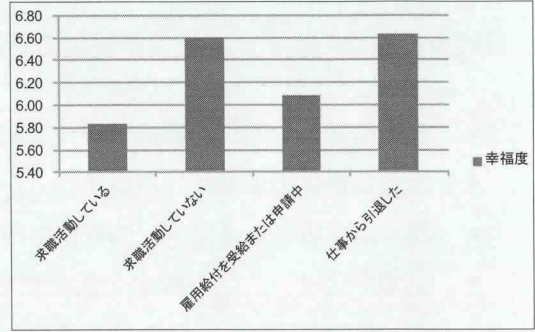


図10. 現在の状況（問16-7）と幸福度（問37）

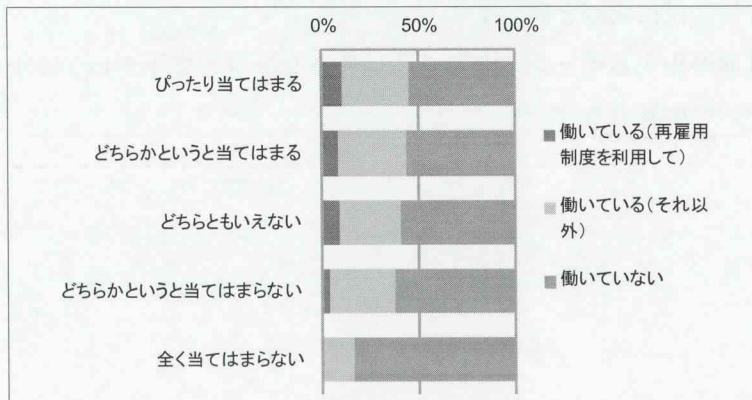


一方、働いていない人のうち、自発的に働いていない人の幸福度は高く（図10）、引退して仕事以外の活動領域に移りたい人も少なくない。いずれにおいても「自発的な」活動が満足度や幸福度を高めるので、在職時から就労意識や暮らしの好みを見極めて、退職後に備えておく必要がある。

## 6. 定年後の中期的な人材活用・能力発揮を考える

65歳以上の退職・再雇用者に限定して、在職時（50歳頃）の就労意識と現在の就業状態をみると、「仕事を生きがい」に感じていた人は、年金受給年齢に関係なく働いている人が多い（図11）。

図11. 退職・再雇用者の在職時（50歳頃）の就労意識（「仕事こそ生きがい」問4）と現在の就業状態（問16）65歳以上に限定した場合





また、自由記述欄によれば、退職後の仕事の充実、職探しの円滑さの面から、公的な資格取得等を勧める声が多い。したがって、年金受給までの雇用延長だけでなく、定年後10年程度のキャリア形成も視野に入れた人材活用・育成（例えば、公的資格取得や中小企業への転職の支援等）を労使双方で考える必要があるだろう。

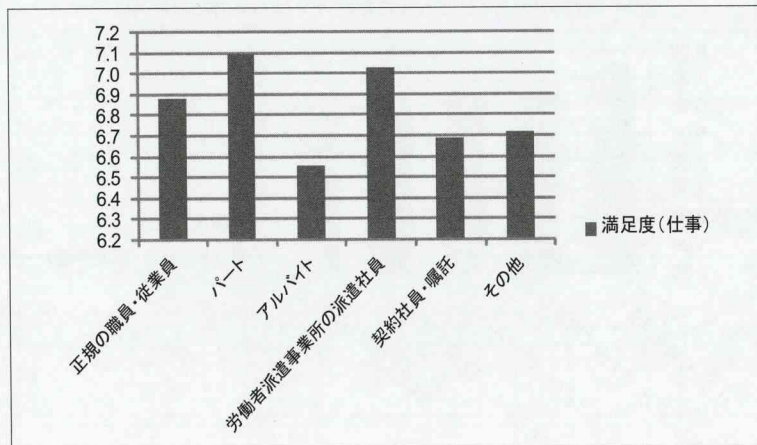
#### 公的資格取得のすすめ、技能や経験の活用：自由記述欄より

- お金になる公的資格取得はやっておくといいですよ。
- 公的資格は出来るだけ取得する方が良い。
- 職の中を広める為に、公的資格の取得も大切な要素だと思います。
- 50歳後半より、定年後の生活を想定した場合の自分の資格、勉強を時間をみて、年休を使って、やるべきでしょう。私は農業や専門校への入学等をやり、現在があると思います。
- 私は定年後、電子製品製造の経験を生かし指導してほしいと頼まれました。現場一筋の仕事でしたが、トヨタ生産方式のうわべだけでなく、底辺から成り立っている仕組みや進め方の経験を基に教え、喜んでいただきました。
- 60歳以降が人生の真の勝負どこだ。働くための特技、資格を取るよう心掛ける事が必要（自分にあった資格、中広く世間の全ての職種から選択し楽しみが味わえるように進むと良いと思います）。
- 退職後に社会に恩返しするために（1）仕事面ではモノづくりの「生産の仕組み、人の効率、目で見える管理の道具等」を各社に指導できる技術を身につける。（2）特技（例えば陸上指導等）を身に付け、指導できるようにしておく。
- 製造現場の管理技術、品質保証、生産性、無駄排除手法を身に付けていると、子会社等で役に立つと思います。
- 資格は取得出来るチャンスがある時はチャレンジして下さい ※上司によりチャンスの増減あり。

## 7. 健康状態や就業意欲を包括的に考慮した処遇を考える

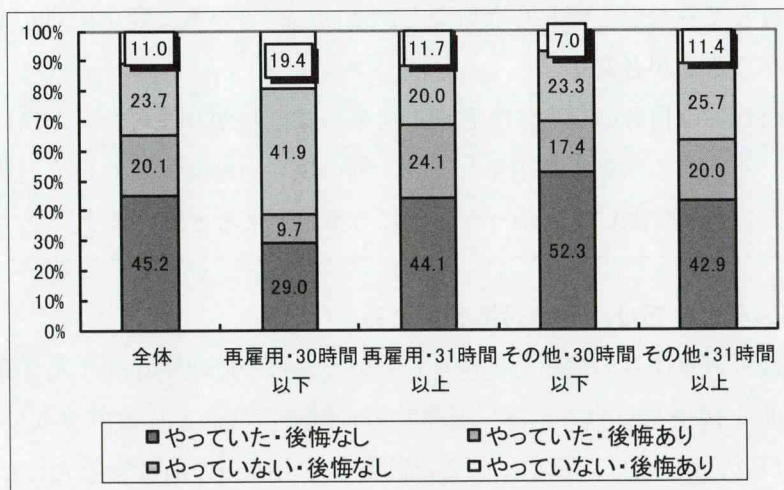
退職・再雇用者の雇用形態別に仕事の満足度をみると、パートや労働者派遣事業所の派遣労働者の満足度が高く、正規の職員・従業員や契約社員・嘱託は必ずしも高くはない（図12）。正社員、契約・嘱託社員の多くはフルタイムの労働者であるが、その働き方や処遇が十分ではないことを示唆している。

図12. 雇用形態（付問16-2）と満足度（仕事、付問38-3）



一方、パートタイム労働者については、「就労（再雇用制度）・30時間以下」でみると、「全体」と比較して、在職時に健康管理や体力づくりに注意しておらず、それを後悔している人の割合が高い（図13）。以上のように、健康管理・就労状態と仕事の満足度には関連があり、これらを包括的に考慮した処遇を考える必要があるだろう。

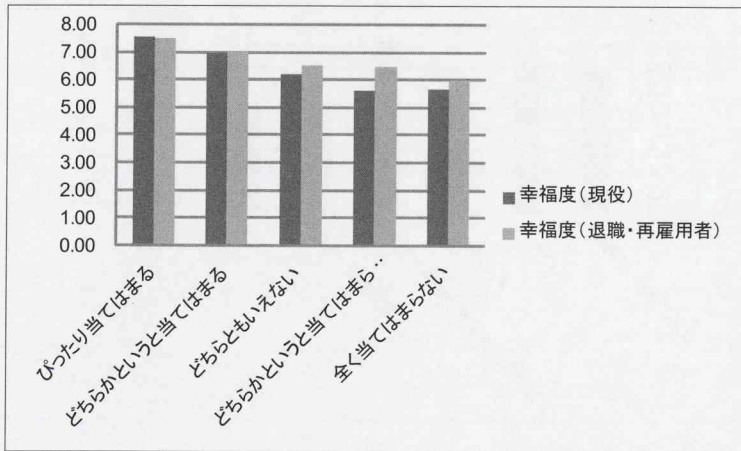
図13. 就労状態と健康管理の状況



## 8. たまには新しいこと・違ったことをやってみる

退職後の生活における心構えにおいて、「新しいことを人に先駆けて試みる」人の幸福度はそうでない人に比べて総じて高い（図14）。退職後のチャレンジやひと区切りつけることの大切さは自由記述欄からもうかがえる。「やり方を守る」ことで幸福感を得ている人びとも、適度に新たなことに挑戦して、仕事や生活に活力を与えることが望ましい。

図14. 何か新しいことを人にさきがけて試みる方だ（問41）



### 新しいことにチャレンジすることのすすめ：自由記述欄より

- あらゆることにチャレンジして身につけておくことが肝要です。後は自分の人生です。いかに前向きに行動するかという自分のやる気です。お互いががんばりましょう。
- 退職はしてみないと解からないことが多い。いろいろな変化に対してついていく柔軟さが必要だ。
- 現役時代には自分の仕事に生きがいを持ってしっかり働いた方が良いと思います。そうする事により定年した時、何の悔いもなく気持ち良く退社出来ます。この会社で働けてよかったと感じる事が出来ると思います。

## 9. 自分の好みをよく知り、その対策を講じる

せっかちな人（夏休みの宿題を先送りしていた人）や危険愛好的な人（降水確率が高くないと傘を携帯しない人）は、退職時の金融資産残高が比較的少ない（図15、図16）。これらの人びとは、将来に備えた貯蓄よりも現在の消費を優先したり、将来の



生活リスクを過小に評価したりするおそれがある。会社説明会は、これらの人びとに対しても、退職後の準備を促す効果があるものの、それでも退職後準備が進まない人に対して、例えば、給与天引きによる貯蓄（あるいは給与の振込口座を複数に分ける）を標準設定にする等の措置も必要であろう。

図 15. 退職時の金融資産残高（万円、問 9）と先延ばしの態度（問 39）

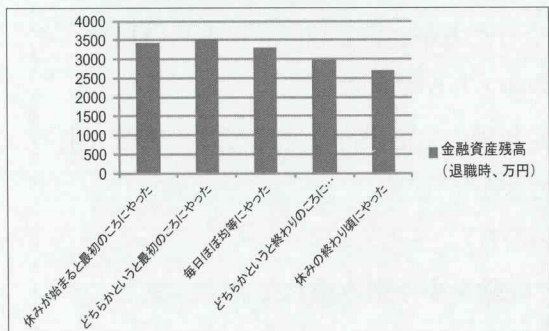
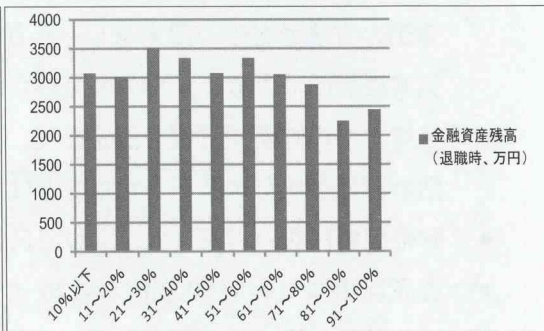


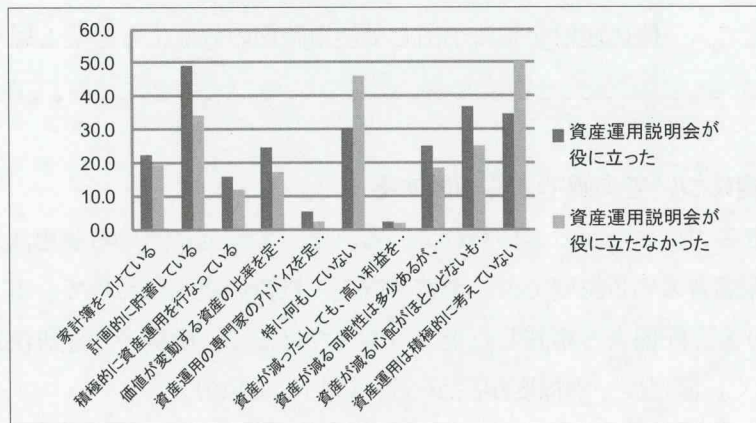
図 16. 退職時の金融資産残高（万円、問 9）と傘を持って出かける降水確率（%）（問 40）



## 10. 資産運用の考え方を学んで身につける

人びとは資産運用に積極的とはいえない一方、資産運用は必ずしも個人のリスク選好だけで決定されるわけでもない。図 17 によれば、会社の資産運用説明会等が資産の運用の考え方にある程度影響を与えている。とくに、退職後の生活資金・資産の運用について、「計画的に貯蓄している」「特に何もしていない」の項目での差が大きい。また、自由記述欄からも、資産運用の重要性について多くの声が寄せられている。以上から、退職後も継続的に資産運用を考える機会が提供されることが望ましい。

図 17. 資産運用説明会の評価（問 13）と生活資金・資産の運用（問 18）、今後の資産の運用（問 19）



## 資産運用、その学習のすすめ：自由記述欄より

- 資産運用で投資信託等は信用できそうで大丈夫であるかの説明をうけても、短期的でなく5～10年先の世間～世界の状況（政治、経済、動向、予想）を十分考慮して投資する事。
- 平均寿命が長くなり、年金問題（赤字になるらしい）もあり、現役中に、何らかの方法で老後の蓄えをしっかりとやった方がいいと思う。子ども（孫）へ気楽に援助できるし、自分の気持ちのゆとりができる。
- 定年までの貯蓄額目標を設定して、定年後の生活設計を立てておくこと（生活の質はなかなか低下させることはできない）。
- 貯金や自社株の購入（少しずつで良いから）。
- 資産運用について30歳位から知って経験を少々積み重ねておく。また、ライフ計画を持つ。
- 5年後、10年後の将来が見えないので、いかなる時にも対応出来るよう貯金をしていく事。
- 老後の生活設計を40歳台で立てておいた方がよい。特に生命保険は若いうちに安い金額の時に入っておいた方がよい。
- 他人と絶対交際しない人は別にして、交際費は自分の近所では月5万円くらいは必ずいる。厚生年金の他、個人年金もいくつか掛けておくこと。貯蓄をして将来に備えるよう。今が良ければいいは駄目です（経験から）。
- 定年退職した時期により運、不運が決まる事が多々ある。定年後の人生も長くあるため、退職金等まとまった金を貯蓄、ファンド、金（ゴールド）等に分散して、一機に運用せずに小出しで使用時期の分散化も必要と思う。

## 11. 貯蓄・投資について夫婦でよく相談する

選択は生きる力につながるといわれている。そこで家庭における意思決定を分析してみると、配偶者のいる家庭では、消費や貯蓄・投資の決定において、本人が単独で決定するよりも、配偶者と相談した上で（本人ではなく）配偶者が意思決定する人ほど、（仕事を除く）満足度や幸福度が高かった（図18、図19）。

図 18. 家計の消費の決定における夫婦の役割（問 24）と幸福度（問 37）、満足度（問 38）

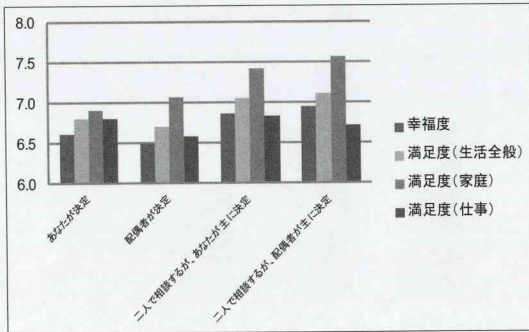
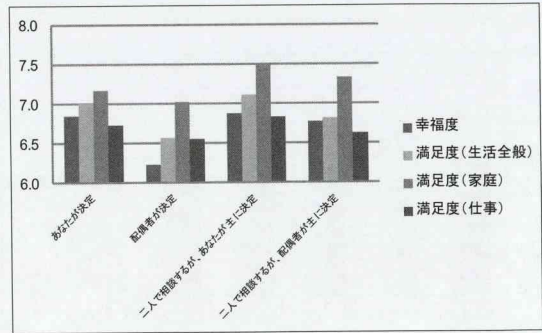


図 19. 家計の貯蓄・投資の決定における夫婦の役割（問 24）と幸福度（問 37）、満足度（問 38）



自由記述欄からも、配偶者との相談する機会を現役のときから設けておくことが退職後の暮らしをイメージする上で重要であるとの意見がある。退職後の暮らしにおいては、難しい選択や不慣れな判断を迫られるときがあるが、夫婦で相談し合うことによって、この苦痛を軽減することが大事である。

### 夫婦で相談することのすすめ：自由記述欄より

- 50 歳くらいまでには奥さん、家族と老後（退職後）の話し合いをして相互理解を図っておくとよい。①収入／資産運用②お互いの生活のペース③共通の趣味をつくっておく④連れ合いを亡くしてからの生活、等々。
- 40 歳頃に夫婦でライフプランについて話し合うと良い（私はしっかり検討しました）。
- 定年退職後の事を夫婦で良く考えて計画を立て推進して下さい（定年後では遅いです）。将来のイメージをつくりあげておく事。

## 12. 家族、友人、近所づきあい等の「社会関係資本」を構築する

退職して職場を離れると、家庭や地域を中心とした生活が始まる。この移行を円滑にするためにも、在職時から家庭や地域での居場所を作っておくことは有効である。本調査によれば、配偶者や子どもがいる、友人・仲間の人数が多い（図 20）、近隣や地域社会との付き合いを増やす準備をしたという人ほど（図 21）、満足度や幸福度が高い。これらの社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）は、暮らしの豊かさにつながるので、在職時から退職後に向けて十分に準備しておくことが望ましい。



図 20. 友人・仲間の人数（問 9）と幸福度（問 37）

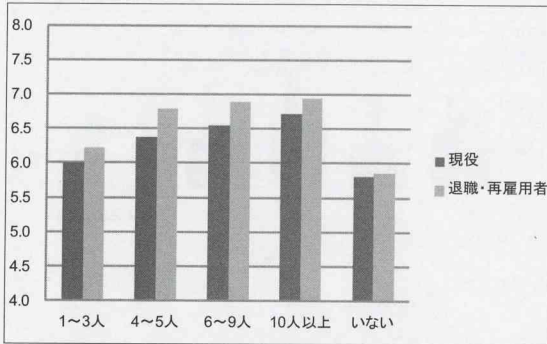
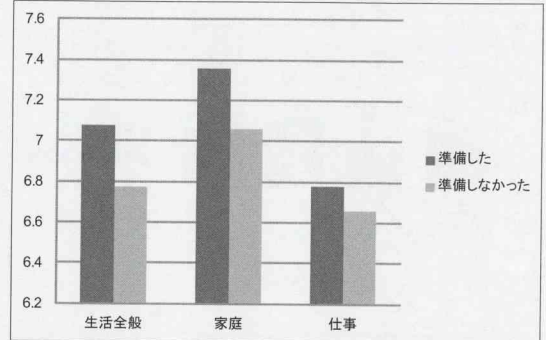


図 21. 在職時定年退職後に備えて、近隣や地域社会との付き合いをやしたか（問 6）と現在の満足度（問 38）



### 家族、友人、近所付き合いのすすめ：自由記述欄より

- 人間関係…人を好きになる心を持つ事。気にいらない、いやな人の批判は自分にとってマイナスで、良いところだけを見る。おかげで私は上司にも仲間にも家族にも恵まれ最高の現役生活を過せ感謝で一杯です。今の仕事も皆さんからあてにされ、これも現役時代の教えのたまものと感謝しています。
- 近隣や地域の活動に積極的に参加して会社以外のつながりを作っておくことです。
- 地域活動への参加→定年後の継続性のある友人づくり。年齢を重ねてもできる趣味をつくる→定年後の心の豊かさの充実。
- 会社員という事で地域活動をしなくても良いという事ではない。出来るだけ参加すること。
- 現役の頃は自分のほとんどを会社関係に使い、仕事中心だったが、現役の頃から一つでいいから趣味を作り、それを通じた友人を作るべきだ。現役の頃から地域の人との交流に心がけ、定年後にスムーズに地域にとけ込む様にする。地域の仲間は定年後でも変わらず長く付き合える。会社の仲間は時間がたつと少しずつ遠くなる。
- 一生お付き合いのできる友人（地域の人、趣味の人、会社の同僚）をいろいろな分野の人達と幅広くお付き合いして人脈を作っておくことがいいと思います。

### 13. 余寿命を想定した上でいろいろな対応を考える

想定した以上に長生きして生活資金不足に陥ることは余寿命リスクと呼ばれている。こうしたリスクを認識して、余寿命の予想することは、退職時の金融資産残高とも関係してくる（図 22）。退職後にどれだけ生きるかという想定は、退職後の暮らしを考える上で不可欠といえる。

図 22. 余寿命予想（問 14）と  
退職に備えた金融資産残高（目標額）（問 18）

